

# 牛久：学校周辺に見る自然

第13号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年5月28日発行

## ＜ 初夏のみずべ公園 ～④ヤナギに来る虫たち ＞

5月9日ひたち野うしく小3年生と、16日1年生とのみずべ公園の生きもの観察、今回はヤナギと、そこに来た虫たちの紹介です。



若葉が赤いから「赤芽やなぎ」（左）。葉が丸いから「丸葉やなぎ」ともいう。綿毛に包まれた果実を飛ばし始めていた（右）。

ふわふわと、綿毛が飛び始めていましたが、タンポポではありません。これは、アカメヤナギの果実です。若葉が赤いので「赤芽やなぎ」ですが、葉が丸いことからマルバヤナギ（丸葉やなぎ）ともいいます。去年はちょうど同じ頃、たくさんの綿毛が飛んでいました（30年度15号）。白い綿毛をもったやなぎ類のタネが雪のように飛び漂うのを柳絮（りゅうじょ）とよんでいます。みずべ公園には、アカメヤナギの他に、シダレヤナギ（第4号）、タチヤナギ（第4号）、カワヤナギ（23年度81号）がありますが、このアカメヤナギが一番遅くに咲きます。



カワヤナギの葉にぶら下がるヤナギハムシのさなぎ（左）と、その天敵、カメノコテントウのたまご（右）。

カワヤナギの葉には、やなぎの葉を食べるヤナギハムシのさなぎがぶら下がっていました。ところどころ、葉に穴が開いているのは、このヤナギハムシの幼虫や成虫が食べたあとです。そしてよく見ると、近くにこのハムシを食べるカメノコテントウの卵がありました。ちょっと大きめで、オレンジ色をしています。ヤナギハムシの卵や幼虫を食べて育つてんとう虫で、ナナホシテントウなどくらべると、だいぶ大きいです。成虫は、今年ここでは見つかりませんでしたが（30年度8号）、次のシダレヤナギで見つけました。



シダレヤナギの葉を食べるヤナギハムシの幼虫(左上)と、さなぎ・成虫(右上)。成虫の拡大(右中)。ヤナギハムシのたまごを食べるカメノコテントウ(左下)。葉の汁を吸うヤナギクロケアブラムシ(右下)。

シダレヤナギには、いろいろな虫がたくさんいて、1年生のみなさんも立ち止まって観察しましたね。ヤナギハムシは、幼虫(ようちゅう)も成虫(せいちゅう)も葉を食べていました。さなぎもぶら下がっていました。たまごも産んでありました。さらに、そのたまごを食べているカメノコテントウの成虫も見つかりました。ふ化したの幼虫?と、思ってよく見たら、アブラムシ(ヤナギクロケアブラムシ)でした。また、今回は見つかりませんでした。ヤナギの葉はコムラサキというチョウの幼虫も食べます(30年度17号)。いろいろな生きものを支えている木なのですね。

【理科支援員：宮内】